

平成29年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

- 1 開催日時 平成29年7月13日(木) 午前10時～午前11時30分
- 2 開催場所 伝国の杜2階 第2小会議室
- 3 出席者
(委員)
 - 堀江 昭浩(置賜地区高等学校教頭会会長)
 - 磯部 晃輝(中学校教頭会会長)
 - 小川 正昭(一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事)
 - 布施 賢治(米沢女子短期大学教授)
 - 石川ひろえ(伝国の杜ファンクラブ)
 - 山根 秀樹(米沢古典塾主宰)
 - 前山みゑ子(伝国の杜サポーター、おしょうしなガイド)
 - 長谷川茂則(米沢フィルハーモニー管弦楽団) 計 8名

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団
佐藤広明(理事長)、菅野智幸(常務理事兼事務局長)、花田美穂(学芸主査)、
阿部哲人(主任学芸員)、遠藤友紀(主任学芸員)、佐藤正三郎(主任学芸員)、
安部理絵(主任舞台企画員)、藤元周平(舞台企画員)、
生熊郁子(主査)、寒河江大輔(主任)、小松史織(主事) 計 11名

欠席者

(委員)

佐藤 繁(小学校教頭会会長)、小島光江(小島洋酒店監査役)

計 2名

- 4 開 会 (生 熊)

- 5 あいさつ(理事長)

当財団は現在、「伝国の杜」と「ナセBA」という二つの文化施設の指定管理者として各種業務を推進しているが、それぞれに運営協議会を設置し、「事業等の適正な運営を図るため」、委員各位から「実施する事業」や「施設の利用」について御意見・御提言をいただいている。

伝国の杜運営協議会は、米沢市上杉博物館の指定管理者としての、また置賜文化ホール指定管理者である米沢市の業務補助者としての当財団の業務運営等について、委員御自身の御意見や御提言を忌憚なく言っていただく場。

今回は、昨年度の事業や業務についての自己評価と今年度の事業計画についての概略報告のあと、懸案の課題について、委員それぞれのお立場からの御助言や御提言を頂戴したい。

一つ目の課題は、「米沢市上杉博物館や置賜文化ホールで観たいテーマや公演について」。

上杉博物館の展示は常設展と企画展があり、企画展は、歴史展示や美術の展示など、現在年に6本開催しているが、それぞれ2、3年前からの準備が必要。

一方、指定管理期間は5年で、現在の管理期間は平成30年までなので、指定管理者として継続採択されるには事前の審査に通らなければならない。その際の重要な柱の一つが企画展で、今後ほぼ1年の間に、平成31年度からの次の5年間の企画展の事業計画書を作成する必要があり、そのテーマを選定する参考となる御意見やヒントを頂戴したい。

また、置賜文化ホールの自主事業は例年15本程実施しているが、ここ2、3年入場者が減少傾向にある。こちらは、翌年度の事業を前年度に組むことが多いため、皆様の御意見・御提言をより生かしていけるものと思う。

課題の二つ目は、「ミュージアムショップ事業について」。

ミュージアムショップは、博物館への信頼と親近感を高める役割を持つ、言わば博物館の顔でもあるが、公益財団法人の当財団としては、数少ない収益事業の一つで、指定管理料以外で唯一の収入源でもある。そうした二つの意味で、ミュージアムショップがさらに輝きを増していくための手立てを考えたい。

そこで、現在のショップを利用されての体験を基に、限られたスペースであっても、人目を惹き、入りやすい陳列棚の配置や商品の品ぞろえ、レジでの対応などについて御助言をいただきたい。加えて、上杉博物館の人気商品、名物商品は作れないものか。この点についても御提言をいただきたい。

6 委嘱状交付

机上配付にて委嘱状交付。

委嘱期間は平成29年7月13日から平成31年7月12日の2年間。

7 委員自己紹介

8 職員紹介（事務局長）

9 会長及び副会長選出

事務局より、伝国の杜運営協議会運営要綱第5条第2項により委員の互選により選出していただく旨諮ったところ、事務局に一任され、会長に小川正昭氏、副会長に小島光江氏を推薦し選出。

運営協議会要綱第6条に基づき、小川正昭会長が議長として議事を進行。

10 報告（事務局長）

- (1) 平成28年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について（資料1）
- (2) 平成29年度 米沢市上杉博物館・置賜文化ホールの主な事業について（資料2）

（事務局）

資料1、資料2について、事務局長から概略を説明した。

（布施委員）

催し物の内容や季節によって入場者数の増減があることをふまえた上で企画を立て、入場者が増えていくと良いと考える。

（堀江委員）

自己評価は低数値のものもあるようだが、これだけ細かく評価していること自体が素晴らしい。だが、課題は明確なものの、限られた時間・人員では優先順位をつけて解決していくことが大切。

（長谷川委員）

基礎的な市内人口を鑑みても集客は大変。南陽市の「シェルターなんようホール」の事業例では、市外在住者の入場が多い。施設そのものだけでなく公演内容への興味によって、どこからでも来場はあると思う。他市町、県外からも来場があるような手立てがあると良い。

11 御意見、御提言

- (1) 米沢市上杉博物館や置賜文化ホールで観たいテーマや公演について（資料3、4）

（事務局）

資料3、資料4について、事務局長から概略を説明した。

（石川委員）

人を集めるような企画と考えると、平成26年度の「ムーミン展」の人の多さを思い出す。観たいものが観られず何度も足を運んだ記憶がある。トイカプセルマシンにも長蛇の列ができていた。個人的にはもう一度ムーミン展が観たい。テレビでムーミンを見て育った世代なので、トーベ・ヤンソンの人柄まで分かる展示は貴重であった。

（山根委員）

ホールで以前行っていたプロの能を近年観ていない気がするが、今後どうなっていくか。また、本格的な合唱団を呼ぶのはどうか。出演者の人数が多いため宿泊費等経費面が大変かと思うが、プロより招聘しやすい大学生の団体もある。米沢にも合唱団はあるし、学生にも上手く宣伝すれば集客は見込める。

（事務局）

開館当初は能の事業を毎年行っていたが、経費面の厳しさから実施可能な間隔を空けて開催するという方針になっていた。ここ2、3年開催できないでいたが、来年金剛流または観世流の能が出来ないか検討が必要と考えている。

質の高い合唱活動をしている大学で全国ツアーや合宿先を探しているという話を

よく聞く。単発で呼ぶ場合は高額になってしまうため、大人数の場合は予算立てや後ろ盾が必要。プロ団体と天秤をかけながら、今後実現できるかを考えていきたい。

(山根委員)

大学合唱連盟のような組織が各学校の演奏旅行等情報を持っていると思うので、そういったルートからもアプローチをかけていくと良い。

(議長)

スポーツ合宿の売り込み等もよく聞かれるが、音楽系でもそういうものはよくあるのか。受け入れ先は準備や協力体制があるのか。

(事務局)

オーケストラや吹奏楽、最近では能でも、旅行や強化合宿を兼ねた遠征が増えてきているようである。自主事業にならない限り、貸し施設としての対応となる。困りごとがあればコンベンション協会へと案内しているところなので、何かあればぜひ相談させていただきたい。

(前山委員)

博物館の客層を見ていると、洛中洛外図屏風を見に来るのはほぼ県外からの来館者。コレクショントークや内覧会等の客層も固定化しているように感じる。市民一人一人にもっと博物館の良さを知ってもらい、広めてもらいたい。無料開館日もあるが、「市民デー」のようなものを設けると、目を向けてくれるのではないかな。

(議長)

「市民感謝デー」のような取組みはあるのか。集客の見込める内容で一日無料開放すると、市民も足を運ぶのではないかな。

(事務局)

無料入館日が年に3回あるので、積極的にPRを行っている。

(長谷川委員)

山響コンサートについて、米沢の山響会員も山形市での演奏会へ行くため、演奏曲目が異なっても距離の近い米沢市での演奏会には来ないのではないかな。現状の入場者数をのばすのは難しいと感じる。

大学等の合宿地として演奏してもらおう場合、OB会が手厚く活発なところが成功しているのだと思う。自分も天元台で練習合宿を行った後市内でコンサートを行ったことがあるので、大学等で何かそういった流れがあれば、周辺施設での消費も考えられるのではないかな。

(堀江委員)

スポーツもので、オリンピックの変遷や日本人の活躍、技術やルールの移り変わりといった展示を見てみたい。ただしテレビやネットでもこういった情報を得ることはできるので、敢えてドーピング問題や選手・種目の商品化、開催経費といったネガティブな面も紹介すると人目をひく。

「上杉文化エリアに行けば何かやっている」というイメージが定着すればこのエリアへの集客も期待できるようになるのではないかな。

また、平成26年のホール事業「稲川淳二の怪談ナイト」が入場者数355名と好評であったようだが、どのように分析しているか。

(事務局)

平成24年度に1回目を行い大好評だった事業である。他の公演では珍しい30～50代男性という層の入場者が多く、平成26年度に2回目を開催した。舞台セットや映像、語りも芸術性が高く素晴らしいものであった。

(議長)

博物館でのスポーツ関連の展示については昨年も意見が出たが、そういったテーマへの取り組みはどうか。

(事務局)

企画展示の位置付けとして①上杉に関する展示、②教育普及的な展示、③博物館の資料を公開する展示、④調査研究の成果の展示の4本柱を掲げており、スポーツ関連の展示となると教育普及的な展示に分類される。スポーツ専門の学芸員がいないため他館からの協力を得て開催することも可能ではあるだろうが、オリンピックに間に合わせるのは難しいかもしれない。

(磯部委員)

日本人の好きな戦国時代あたりの展示を充実させていってほしい。米沢城ができて伊達氏が入ってくる前の米沢といったローカルなテーマも個人的には興味があるが、日本人がよく知っていて好みそうなテーマと上杉を結び付けていくことで、より興味関心の持てる内容になると良い。また、米沢出身俳優の出演映画や漫画家の作品に関連した展示も良いと思う。

(事務局)

上杉謙信や景勝といった人物達の教科書的な歴史展開の中での活動、逆に教科書等には表れてこない、地域の中での活動も含みながら展示を構成していくよう今後も心掛けたい。タイトルも興味関心に訴えかけるものを考えていく。戦国時代に関するテーマは人を呼べるが、まず様々な方法で展示資料を集めなければならない。

(布施委員)

こちらが見せたい展示と入場者が見たい展示は合致することは少なく、ずれが生じることが多いものだと思う。馴染みのないテーマ、かつ資料の面で時代的に確実な展示・提示が難しいだろうが、近現代史の企画があると良い。戦後の学生文化史・交流史や軍事史等、郷土の青年会等も考えられる。郷土としての米沢を山形、庄内、最上、東北と視野を広げて捉え返していくと、市外へも広くアピールできる展示になるのではないか。

(2) ミュージアムショップ事業について (資料5)

(事務局)

資料5について、事務局長から概略を説明した。

(議長)

欲しい新商品のアイディア等あれば教えてほしい。

(前山委員)

博物館のことや米沢の歴史が分かる、すごろくやカルタなどがあると良いと思っていた。

(石川委員)

あえて未完成のものはどうか。例えば、最後に伝国の杜入り口に設置してあるかねたんスタンプを押すと完成する折り紙かぶとや、郵便局で日付印を押すと完成する、愛のかぶとに因んだ結婚祝いに送れる「愛」グッズなど。

(山根委員)

ショップの位置であるが、展示室から出てきたときに必ず通るような配置ができると、周知もされて購入へつながると思う。また、どこで何が売れるのか情報を広く集めると参考になるのではないか。

(堀江委員)

お土産が必要な時、クリアファイルやマグネットなどの比較的安価で数を確保でき、かさばらないものを購入するが、そういった際に6～8個のセット販売で安くなると良い。

(布施委員)

以前、空気で膨らませて揺れるかねたんグッズを購入したが、女子学生がどこで購入したか興味があるようだった。手のかかったかねたんグッズは面白いと思う。また、この博物館でしか買うことのできない郷土関係資料や図録が充実すると良い。

(議長)

国際空港の事例では、空きスペースにトイカプセルマシンを設置したところ日本円を消化しようとする帰国客を中心に大ヒットしたとのこと。ムーミン展でも好評だったということで、戦国時代関連の展示でもそういったものがあれば面白いだろう。

1 2 閉 会 (生 熊)

1 3 閉会後展示見学

企画展「生誕100年 遠藤桑珠」 展示案内：主任学芸員・遠藤友紀